

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援・放課後等デイサービス HUGS		
○保護者評価実施期間	2026年3月1日		～ 2026年3月21日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	20	(回答者数) 15
○従業者評価実施期間	2026年3月6日		～ 2026年3月21日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	12	(回答者数) 11
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 3月 31日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	児童発達支援との多機能を利用した継続的な支援体制と、異年齢同士でのコミュニケーション、居場所の獲得	学校や家庭でない、第3の場所として安心して過ごせる空間・環境作りを意識しています。特に、児童発達支援から放課後等デイサービスに移行する際には、様子、園から学校へ移行時の課題など、具体的に困る場面を想定して対応しています。異年齢が同時に活動することで、多様性を受け入れ、人とのコミュニケーションが自然と身に付く支援を実施しています。	集団の中で役割を持つことで、人から必要とされ認められる経験を重ねていけるよう取り組みます。また、たくさんの人との関わりから、相手を理解・尊重する機会を多く持ち、気持ちの成長を促す取り組みを行います。
2	子どもの発達、ニーズ(医療ケア)に応じた支援体制	医療的ケアが必要な子どもに対して、看護職員・有資格者を配置して対応しています。重症心身障害児、不登校、困難ケースなど、家庭では取り組みにくい課題に対応しています。リハビリ機関での取り組みを、事業所でも実施・支援しています。	学校や役所、相談支援事業所、併用事業所、リハビリ機関など、各機関と連携を強化していきます。成長に合わせた支援方法を模索し、子どもの力を伸ばせるように、過剰な支援(補助)にならないように、“きっかけを与えて待つ支援”を行います。
3	本人の意思表出、意思決定ができるような丁寧な関わりの実施	どのような場面でも、本人の意思を聞く、汲み取る機会を設けています。その中で、意思を形成すること、表出することを大切にしています。	職員の雇用の継続性、専門性を高め、子ども・保護者との信頼関係を構築して、安心して通所できる環境づくりに取り組んでいます。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会の確保	学校までの距離が遠い児童が多いため、時間の確保が難しいと共に保護者ニーズがない状態です。公園等で一緒になった時は共に活動することもあります。配慮のいる子どもに目が届きにくくなる恐れもあり、積極的に実施できていません。	一緒に活動できるイベントを企画・開催することで、地域の子どもを含めた住民や商店・企業様との合同活動を持てるように取り組んでいきます。
2	家族の対応力の向上を図るための、家族等の参加できる研修の機会や情報提供等の実施	特性、困りごと、ニーズが様々であり、課題も多様であることから、小集団でのペアレントトレーニングの実施は難しく、個別に相談・助言をする機会になっています。	ペアレントトレーニングの専門知識を持つ職員が不足しているため、研修等を実施して個別ケースに対応できる人材を増やしていきます。
3	各マニュアルなどの情報の公開方法がバラバラになっており、確認したい時に見ることができない状態	マニュアル制定時に配布しHP上で公表していますが、保護者や子どもにそれらの必要性が伝わっていないように感じています。また、職員も自主的に確認することが出来ておらず、意識が低いと思っています。	職員、子ども、保護者にマニュアル、非常時の取組を意識してもらえるようにツールを活用していきます。